

植物資源保全学特論（2単位）

担当者氏名 寺澤 和彦、中村 隆俊

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

自然環境の保全や再生には、対象となる生態系の構造と機能を十分に理解することが極めて重要である。本講義では、陸上植生の保全、管理、再生の手法や方策を科学的根拠に基づいて立案するために必要な生態学の基礎知識とその応用能力を修得することを到達目標として、植物生態学の基本事項を講述するとともに、湿原や森林などの植物群落の生態解明に関する最新の研究事例を講義と輪読によって学習する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

植物生態学	植物の環境応答	植物の分布戦略	植物個体群
生活史特性	生物多様性	繁殖生態	

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	植物と環境 (第1～2週：中村)	植物が水中から陸上へと進化した過程で獲得した主要な環境適応機構について概説する。	予習として、講義内容に関する基礎的な知識は教科書等を参考に修得しておくこと。 とくに輪読では、十分な予習と担当箇所のレジメの作成が必要である。 講義後のレポートは、授業で得た知識に加え、文献や資料で調べた内容を含めて考察し、作成・提出すること。
2	光合成生態学 (第3～4週：中村)	光環境に対する生態生理的な適応機構と、光環境傾度からみた植物の分布戦略について解説する。	
3	植物の栄養生態 (第5～6週：中村)	養分環境に対する生態生理的な適応機構と、養分環境傾度からみた植物の分布戦略について解説する。	
4	植物と温度環境 (第7～8週：中村)	温度環境に対する生態生理的な適応機構と、温度環境傾度からみた植物の分布戦略について解説する。	
5	植物の繁殖生態（1） (第9～10週：寺澤)	植物の交配システムや種子の散布と捕食について解説する。	
6	植物の繁殖生態（2） (第11-12週：寺澤)	マスティング（個体群で同調した間欠的な結実豊凶）の至近要因と究極要因について解説する。	
7	植物の生活史特性（1） (第13-14週：寺澤)	多種共存のメカニズム（Janzen-Connellモデルなど）について理論と実証例を学ぶ。	
8	植物の生活史特性（2） (第15週：寺澤)	冷温帯の代表的な樹種を例として取り上げ、それらのユニークな生活史特性を学ぶ。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）
植物生態学／甲山隆司ほか／朝倉書店（2004）
植物の繁殖生態学／菊沢喜八郎／蒼樹書房（1995）

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）
木は語る－芽生え・熊棚・空飛ぶ果実／清和研二／築地書館（2015）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート作成や輪読への取り組み状況、授業中の議論への参加態度で評価する。

◆オフィスアワー

水曜日14:30-16:20(寺澤)、月曜日12:10-13:00(中村) いずれも研究室にて

◆その他受講上の注意事項

調査や学会等でやむを得ず欠席する場合は、事前に申し出ること。